

愛知スキー協通信 No.273

発行：新日本スポーツ連盟 愛知スキー協会

2017年 11月 1日

〒460-0011 名古屋市中区大須 1-23-13 TEL052-201-4801 (Fax 共)

e-mail: aichiskikyokai@yahoo.co.jp (月1回発行)



<http://aichiskykyou.yukigesho.com/>

編集クラブ：深雪スキークラブ

シーズン中には出来ない技術の向上

その2

(第38回東海ブロックスキー交流学習会 1課 レジメ) 文責 理事長 寺田康男

1. タイプ・レベルはどうあれ今の教程書の滑りでしなければならない事

その1 (体軸を傾けてターンをする)

- ・+外足加重して板の横ずれが止まると板がたわむ

その2 (先落としでターンを始める)

- ・先落としされるポジションに姿勢の移動

その3 (切り替えゾーンではターンをしない)

- ・板のたわみが戻され板が走りながら腰の移動=絶え間ない大きな重心移動を伴う運動が在る

2. 走るターン・走る切り替えが指導員のレベルの別れ目

- ・厳密には走るより、減速しない・減速が少ない方が正確かも？
- ・直滑降でスピード変化をつけられるか？
- ・重心移動とポジショニング
- ・初級指導員→中級指導員→上級指導員

3. 今季の推薦テーマは、基本の「体軸を傾ける」にしたいです。

- ・自分でテーマを決める人は、それでOK
- ・2016年のテーマの続きでもOK
- ・レジメに記名と意見をメモして返却でもOK

4. 「体の使い方タイプを見極めた指導方法」(実践報告に基づく議論)

前タイプの特徴と意識

- ・伸び上がりながら、足首を前傾差せる感覚で先落としをする。
- ・板の間隔が狭い(それでもカービングできる)
- ・切り替えゾーンの意識時間と運動が長い

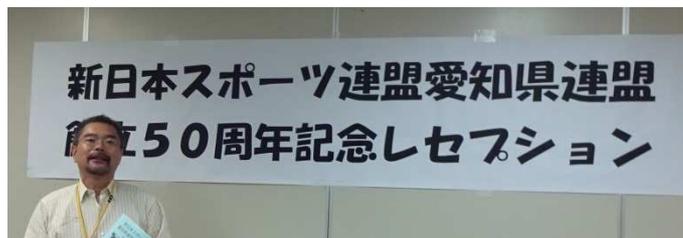
後ろタイプの特徴と意識

- ・抱え込んで、時間をかけずに、意識は右から左に横に腰を移動させるだけの感覚で切り替える
- ・板の間隔が広い(でないとカービング出来ない)
- ・足首の前傾を緊張と言う感覚で維持する

新日本スポーツ連盟愛知県連盟

50周年レセプション開かれる

10/14（土）18時から労働会館において新日本スポーツ連盟愛知県連盟50周年記念レセプションが開かれました。テニス、スキー、卓球、バトミントン、バレーボールなど各種目から全体で50名が



歓談する牧野 島田 永田 寺田 大森 米村の各氏

参加しました。スキー関係では牧野 寺田 永田 大森 島田 米村 浅井 渡辺 長谷川（ロボスポーツ）近藤の10名が参加しました。

全国からは石川理事長、川島京都府連盟理事長がかけつけお祝いの言葉を述べられました。

青木会長（新日本スポーツ連盟愛知県連盟）の挨拶

県連盟の50年に及ぶ活動は1965年に新日本体育連盟（略称“新体連”）が前年から全国で大きく広がった運動—全国青年スポーツ祭典—の成功のエネルギーが原点となり連盟組織の結成に至りました。

“いつでも どこでも だれでもスポーツが出来るように！” “スポーツは万人の権利”をスローガンとして“ドル平水泳教室”や“スキー学校”をはじめとした各種の初心者、初級講座が旺盛に開催されました。

当時は中区栄の大川ビルを拠点として連日連夜、これらの行事に触発されて軟式野球、卓球、バスケットボールと裾野が広がっていきました。また、東京、大阪など各地の進んだ活動の教訓を生かす努力が徐々に成果を上げ始め、全国競技大会を招致して開催の種目の特徴を生かした行事も開くことが出来て、今日の組織327クラブ4053名の基礎をつくりました。

この間、新日本スポーツ連盟への激しい妨害行為も経験しましたが、今日ではスポーツ愛好者に深いつながりを持つことが出来ています。

50年を経た現在でもまだ不十分さを抱えていますが“スポーツ君が主人公”“スポーツは平和と共に”のスローガンのもと、今後も挑戦していきます。

2011年6月24日に成立した「スポーツ基本法」に「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、すべての人々の権利」と謳われていることを胸にひめて進めます。みなさんの引き続きのご支援、ご協力をお願いいたします。

これに先立ち、島田さんと米村さんが愛知スキー協の1966年からの活動を掘り起こし年表にまとめてくれました。資料が分散していて大変困難な作業だったそうです。ありがとうございました。また、若い人の参加が少なかったこと、組織の高齢化の改善が必要だと感じたそうです。

私は近藤指導員のスキー教室で深雪に連れて行かれ、初めての体験で転んでばかりで大変だったことを思い出しました。浅井



初期の指導員章（近藤さんから）

第38回東海ブロックスキー交流学習会開催報告

2017年10月28日(土)～29日(日) 東海市立勤労センター、文化センター

第38回東海ブロックスキー交流学習会をスキー協東海ブロックの指導員を中心としたメンバーで行われ、全体で28名(愛知:15名、岐阜:4、三重:4名、静岡:5名)が参加しました。

1課:「提出レポートから学ぶ」 講師:寺田康男氏(愛知スキー協会理事長)



2017年度東海ブロック初滑りの研修会にて「滑りのレベルアップ・体の使い方タイプを見極めた指導方法」を提案しレポートに対する意見をまとめ、その内容を振り返りながら共通する課題とアドバイスをまとめて発表しました。「レッシュの4スタンス理論」に基づき、その人が持つタイプ別の指導法などを学びました。寺田理事長の手作り「スキーヤー模型(A/B)」は見事な出来栄で、実際に動かしながら動作を確認しました。

第2課: 指導員の心得「教え合う場とは」 講師: 東 雅夫氏

(愛知スキー協会副理事長)

技術を教え伝達することは、指導員だけの役目と多くの方が思いがちですが、誰もが出来る環境作りを参加者全員で考えました。もちろん、指導員としてしなければならないことなども再確認しながら組織作りや発展させることの意義について語り合いました。また、山スキー、競技スキー、スノーボードの魅力をそれぞれの担当者より発表がありました。

夕食後はスキー協のDVDを鑑賞し、体軸の傾け方などを議論しました。

第3課 (2日目文化センターにて)

- ・「SBBについて」 講師: 澤田安利氏(競技部長) 通信N○272に掲載
- ・「救急法」 心肺蘇生 講師: 東海市消防署救急隊



人形を使って救命法を実際に学ぶ参加者

心肺蘇生法は日々新しい知見が得られているようで、最新の方法を教えて貰いました。

まず、応急手当をする前に

- ・素早く的確に観察する
 - ① 意識はあるか ②呼吸をしているか
 - ・他の人を呼ぶ
 - ・救急車を呼ぶ、AEDを持ってくる
 - ・心臓マッサージの方法・・・胸骨上の圧迫点を垂直に5～6cm、1分間に100～120回のリズムで押し下げる。
 - ・AEDの使い方
- 機械が使い方をアナウンスするのでそれに従う。簡単にできている。

人形3体を使って心臓マッサージとAEDの使い方を全員が実習しました。人工呼吸はしなくてもいい。救急車が来るまでやり続けること。ペースメーカーを使っている人にはそこを避けてAEDを使う。などいろいろ教えていただきました。

- ボーダーとの接触を回避 講師：佐藤 実氏（上級指導員）

深雪スキークラブ

BBQはおいしいね 10月1日(日)「あそぼう家なか」

宅

参加 13 名

大変よかった。焼きそば(カセットコンロ)は東さんが専任で焼き、早目にできて食べることができました。野菜と肉類は網焼き、鉄板焼きと炭火でおいしく頂きました。いい天気でしたのでBBQを食した後は部屋に入ってデザートをいただきながらシーズン中の計画を話し合いました。これもとってもよかった。野菜とケーキ類の差し入れもあり、会費 1,500 円と格安でした。



これからの計画

- ・クラッシュアイスを滑ろう、紅葉を楽しもう、欲張りツアー 11月19日(日)
- ・望年会 12月15日(金) 午後7時~9時 金山「叶」 会費 4,000 円

深雪スキークラブ冬の行事予定

- ・年末年始スキー 12/30~1/2 野麦峠スキー場
- ・1/26(金)夜発~28(日)スノーフェスタ 平湯温泉スキー場
- ・平日スキー 月1回(金曜日) 未定 希望者は児玉さんへ
- ・北海道 2018年2月 日は未定
- ・東海ブロックの各行事に参加

東海ブロック行事予定 誰でも参加出来ます

- ・東海ブロック初滑り(指導員養成・研修) 12/9(土)~12/10(日) 菅平大松山スキー場
- ・東海ブロックレベルアップ(指導員養成・研修) 1/6(土)~1/8(月) 野麦峠スキー場
- ・東海ブロックポール練習 1/20(土)~1/21(日) 藪原スキー場
- ・東海ブロックスノーフェスティバル 1/27(土)~1/28(日) 平湯スキー場
- ・東海ブロックポール練習・指導員研修・検定 2/17(土)-18(日) 野麦峠スキー場
- ・第44回全国スキー競技会 3/4(土)-5(日) 戸狩スキー場
- ・東海ブロック第2戦競技会 3/10(土)~3/11(日) 野麦峠スキー場
- ・東海ブロック技術委員会(後半) 3/24(土)~3/25(日) 野麦峠スキー場
- ・東海ブロック競技部合宿 5/3(木)~5/6(日) 野沢温泉スキー場

スキーメイトNo. 171号より抜粋

平昌オリンピックに向け「南北統一チームを」全国勤労者スキー協議会会長 栗岩恵一
前略

本格的な話し合いこそ肝要

次回の冬期五輪開催国の大統領が、世界平和のための南北統一チームを呼びかけているのであるからこのチャンスを逃す手はないを思っている。アメリカや我が国は、北朝鮮との対話を先送りし、様々な制裁によって北朝鮮の態度を改めさせようとしている。五輪まで時間がないことを理由とせず本格的な平和的な話し合いの場を設け、南北統一チームの参加によって緊張している南北関係、米朝関係の改善に向けてのその一步を踏み出すことが肝要だと思っている。